The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	甲子園会館と建築学科の学生
Author(s)	岡﨑, 甚幸
Citation	デザイン理論. 2016, 67, p. 122-123
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56321
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

甲子園会館と建築学科の学生

岡﨑甚幸／武庫川女子大学生活環境学部建築学科

当建築学科は，甲子園会館，すなわち旧甲子園ホテル（1930年竣工）を学び舎の一つとしている。この優れた建物を建築の教育に活用している。ここではその活用例を紹介する。

当建築学科は６年一貫の UNESCO-UIA が定める建築教育憲章を，わが国で初めて満足する建築学科・建築学専攻として，正式に認定された。その教育は，午前中は講義，午後は一人に一台ずつ用意されたパソコン付の製図机があるスタジオ（製図室）で建築設計演習を行うというものである。また土曜日は，学外などへフィールドワークに出かける。講義，演習，フィールドワークが互いに連携している。学部40人，大学院修士課程22人，博士課程２人の少人数制教育である。

甲子園会館は1930年，関西初の西洋式ホテルとして，建築家・遠藤 新によって設計された。遠藤 新は，帝国ホテルの設計および現場監理にかかわった。帝国ホテルは1923年の関東大震災の日に竣工式を迎えた。

製図室　建築学科の新入生には，甲子園会館のスタジオで，一人に一台ずつ，パソコンが備わった畳一帖大の製図机が与えられる。２年生になると，各々の机やパソコンごと，我々が設計した新校舎の建築スタジオに移動する。

帝国ホテル　毎週土曜日には各学年ともフィールドワークがある。１年生のフィールドワークの一つに明治村の見学がある。移築された旧帝国ホテルの玄関を見学する。

フランク・ロイド・ライトの設計による旧帝国ホテルと，旧甲子園ホテルは全体の形態や材料，細部のデザインがよく似ている。

建築設計演習に入る前に，１年生は空間表現演習で，瓦製作，生け花，陶芸，デッサン，モザイク，フレスコ画，木工，透視図など，さまざまな材料を扱った演習を経験する。

甲子園会館には，その当時はよく使われていても，今はあまり使われていない貴重な材料が数多く残っている。その一つが織部色の瓦である。建設当時の瓦が，ほぼそのまま残っている。

屋根の瓦　京都の瓦屋さんの指導により，伝統的な手法で甲子園会館の瓦を作る。大きな粘土の塊から，瓦の厚さの粘土板を切り出し，それを木製の瓦の型に載せて，一枚の瓦に成形にする。

成形した瓦に釉薬を掛けて，電気釜で焼く。それを瓦屋さんの指導で，甲子園会館の屋根の古い瓦と入れ替える。

2009年には，皇太子殿下が甲子園会館に立ち寄られ，学生たちの瓦制作の様子を見学された。学生たちは緊張しながら，瓦作りを実演，説明した。

壁のタイル　織部色の屋根瓦に対して，壁には２種類の装飾タイルと大谷石に良く似た日華石が使われている。装飾タイルの一つは150mm 角，もう一つは高さが50mm のボーダータイルである。150mm 角の装飾タイルは，その方向を90度ずつ回転した４枚を組み合わせることで新たなパターンを形成するライト固有のデザインを継承している。

学生たちは，この150mm 角のタイルを制作し，アトリエの電気釜で焼成する。

木工　フランク・ロイド・ライトが設計した建物の壁には，日本の伝統建築の鴨居や長

押のような独特の木製の装飾が組み込まれている。学生たちのいる甲子園会館のスタジオの壁にも，そのような木製の装飾が施されている。大工さんの指導のもと，自ら鋸や鉋を使って，基本的な空間構成のための木工作品を制作する。

いけばな　未生流笹岡の笹岡隆甫先生の指導で「いけばな」を学ぶ。甲子園会館のアトリエで基本を学んで，それぞれの作品をつくり，それを甲子園会館や庭園の中に置いて写真に収める。続いてグループで大作の「いけばな」に挑戦する。グループごとに飾る場所を決め，そこにふさわしい作品を制作する。

甲子園会館実測　甲子園会館の建築的特長を理解するために実測を行い，それを図面化する。

ライトアップ　庭園の桜やモミジの葉が赤くなるころ，甲子園会館と庭園，新校舎・建築スタジオをライトアップするイベントがある。照明デザインの講義のあと，その実習として，さまざまな照明用投光器やキャンドルを，玄関前広場や庭園に設置する。11月末の土曜日と日曜日に開催される。

昨年のイベントでは，学生たち自ら制作した甲子園会館の起こし絵，甲子園会館の透視図の絵葉書，装飾タイルの形をそのまま小さくしたブローチなどを販売した。

タイル張り実習　甲子園会館に張られているボーダータイルを左官屋さんの指導のもと壁面に張る。

日華石の洗浄と補習　旧帝国ホテルに使われた大谷石は，水に弱く風化が激しい。一方，甲子園会館には同じ表情を持つ凝灰岩の日華石が使われている。この石は，石川県小松市で採れ，水に強い。石屋さんの指導で，その洗浄や補修について実習する。

平面の構成と庭　適当な大きさの矩形に切った紙を水平，垂直に組み合わせて，３次元の空間を構成する。ミースのバルセロナパビリオンを思い出しながら。また，一部の面を鏡にして，そこに風景を写しこみ，空間の変化を調べる。完成した作品を庭に持ち出し，木々の緑，枝を通って差し込む溢れ日，水面などと共演させる。

山邑邸見学　フランク・ロイド・ライトが設計し，彼の帰国後に，遠藤 新らによって完成した山邑邸を見学する。旧甲子園ホテルよりすこし前に竣工し，大きさや個々の空間のスケールがホテルよりも小ぶりな邸宅である。傾斜地から神戸の海を見下ろす空間構成は素晴らしい。

甲子園会館の透視図　現代の事務所ビルなど，絵に描いてもまったく様にならない。しかし設計者は大概，透視図を描いて施主に納めている。一方，甲子園会館は実に絵になる建物である。毎年，それまでとは違った視点から，甲子園会館の着色の透視図を描く。学生たちの透視図も，描く甲子園会館のおかげで上手に見える。

甲子園会館の横に学生会館を設計　甲子園会館の東隣にある空き地に，学生会館を設計する課題である。甲子園会館の模型を作り，それに調和した学生会館を，さきほどの平面の構成の演習で養った手法を用いて設計する。学生たちは入学後の１年間を甲子園会館で過ごし，そこに使われた材料，空間構成，外の景観，庭園などを通して，感性を養い，自分自身の奥深い内面に蓄えて，２年生からは隣接する建築スタジオに学びの場を移す。